

韓国の子どもたちのお気に入りの本

～韓国国立子ども青少年図書館が選んだ子どもの本～

国際子ども図書館 日韓小展示交流

展示期間：2009.10～2010.1

韓国の子どもたちに人気の絵本を韓国国立子ども青少年図書館が選び、紹介文を送ってくれました。

1. 강아지 똥 『こいぬのうんち』

こいぬのうんちは、スズメにつつかれて「汚い」といわれ、悲しくて泣いてしまいます。土くれまで「うんちの中でもいちばん汚い犬のふん」と馬鹿にしますが、土くれは言い過ぎたと反省して、自分の身の上話をきかせました。一人ぼっちになったある雨の夜、たんぼぼがこいぬのうんちに、肥料になってほしいと頼みます。自分が役に立てると分かったこいぬのうんちは、喜んで肥料になり、星のようなたんぼぼの花を咲かせます。たんぼぼの花にはこいぬのうんちの愛がいっぱいつまっていました。

2. 고양이 (コ・ヤンスン)

コお婆さんの家の飼い猫コ・ヤンスンは食べては寝、食べては寝てばかり。性格もわるく、いつも不平ばかり。さかながとてもすきなヤンスンはある日、空に大きなおさかなが浮かんでいるのを見ました。そのさかなが食べたくて夜が明けると街をめざしました。街に着いたヤンスンは高いビルと自動車にびっくり。ついにビルの屋上で綱につながれたさかなを見つけ、がぶりと食いつきましたが、「バーン」とさかなは、はじけ散りました。その後ヤンスンの悪いくせ直ったのかな、どうなのかな。

3. 구름빵 『ふわふわ・くもパン』

雨の朝、私と弟は木の枝に引っかかった小さな雲を見つけ、お母さんがその雲でおいしいパンを作りました。ところがお父さんは朝ごはんも食べずに会社に出かけました。くもパンはふわふわと浮かび、食べた私たちもふわりと浮かびました。窓を開けて空に飛びあがり、ぎゅうぎゅうづめのバスに乗ったお父さんのところへ行ってくもパンをあげました。するとお父さんもふわっと浮かび、会社に行きました。私たちは屋根の上で雲を見上げながら、おいしいくもパンを食べました。

4. 기차 트럭 『あかいきしゃ[キヨック][ニウン][ティグッ]：はじめてであうハングルの絵本』

ハングルは子音と母音でできた文字です。ハングルを学ぶなら、まず子音（ㄱ～ㅎ）を覚えなければなりません。この本は、子どもが楽しく子音を覚えられるよう、お話を作りました。「ながいきしゃが きのよこをとおり はしをわたって ラルラルラル うたをうたいながら むらにたちより …… おおきくくらい トンネルぬけて ひろいのはらをよこぎると たいようはもうしずみます。」どうですか？ 歌を歌うように、すぐにハングルの身につけられそうでしょうか？

5. 까막나라에서 온 삽사리 『くらやみのくにからきたサブサリ』

サブサリはとても勇敢で、強い忠誠心があります。サブサリの祖先である火の犬は、くらやみのくんに火をもたらすため、あらゆる苦難を乗り越えます。玄武に火のある方向を教えてもらい、青龍の守る太陽、白虎の守る月から火をとってきた火の犬は、火を怖がる家来たちに捕らえられ捨てられてしまいましたが、それと一緒に王宮の火の玉も消えてしまいました。朱雀と鶴は火の犬を助け出し、一緒に飛んでいきました。遠くの海の上に太陽が浮かび、火の犬の目から涙がこぼれました。火の犬から黄サブサリと青サブサリが生まれました。

★サブサリ：韓国固有の犬で韓国の天然記念物 368 号に指定されています。

6. 내 동생 싸게 팔아요 『おとうとバーゲンします!』

弟のいるお姉さんお兄さんなら、気持ちが分かるでしょう。口答えする弟、告げ口屋、欲張りの食いしん坊、そのうえいい子ぶりっこの弟を売ってしまおうと、お姉ちゃんのチャンイは市場に行きましたが、おもちゃ屋も、花屋も、パン屋もみんな買ってくれません。ただでもいらないと言われて、弟のいいところを探してみると、寝るときはかわいいし、お姫様ごっここの王子様の役もできるし、歌は上手だし、折り紙の花もうまく作れます。チャンイは弟を連れて帰りました。でも自転車で帰る途中、弟はチャンイの髪の毛をぎゅっとひっぱって、いたずらです。

7. 녀점반 『よじはんよじはん』

家に時計がなかったころのお話。小さな女の子が、今何時か聞いてきなさいとお母さんに言われておとなりのお店に行きました。「よじはん、よじはん」と繰り返しながらの帰り道、鶏が水を飲んでいる様子に見入ってしまいました。アリやトンボについていたり、おしろい花を摘んだり、日が暮れるまで思う存分遊んで、やっとおうちに帰って、時間の報告です。「かあさん、かあさん、いまよじはんだって」 真っ赤なチマを着た女の子が遊びに夢中になっている様子は、とてもかわいいでしょう？

8. 똥벼락 (どしゃぶりうんち)

農業に肥料を使わない時代はうんちが貴重なこやしでした。トルセの父さんはうんちを集

めて作物を作っていました。ある日トルセの父さんは山中でトッケビに会いました。うんちを大事にするトルセの父さんのために、トッケビが呪文をとこなえと、トルセの畑にうんちがいっぱい飛んできて、おかげで豊作になりました。すると長者の金（キン）は自分のうんちを盗んだのだらうと言って、作物を持って来いと言いました。それを聞いた山のトッケビは世の中のありったけのうんちを集め、長者の家にもうんちの大雨を降らせました。長者の家はうんちの山となり、おかげで里は豊作になりました。

★トッケビ：韓国の小鬼、おばけのこと。

9. 만희네 집 『マンヒのいえ』

人がそれぞれ違うように、家の姿も地域や文化によって様々です。マンヒのうちは、アパートからお庭のあるおばあさんの家に引っ越しました。木や花が近所でいちばん多く、大きなかまどに薪をくべる、そんな家です。カメラで写すように家の中や外をていねいに描き、家全体が頭の中にはっきり思い描かれます。

10. 모기와 황소 『蚊とうし』

心優しい牛がヒヨコとえさを分けあって食べるのを見たハエは、牛をばかにして血を吸って、牛の尻尾ではたかれました。その話を聞いた蚊は、牛は自分の食べ物だといぼって、昼寝をしている牛をブスリブスリと刺しました。それでも牛が黙っていると蚊は首にまで咬みつきました。怒った牛は少し考え、死んだふりをしました。いい気になった蚊がハエに自慢していると、牛の尻尾に叩かれ、ぺちゃんこに潰れて死んでしまいました。馬鹿にしているひどい目に合いましたね。

★ハエの中には血を吸うものがあります。日本にもいるイエバエ科のサンバエは家畜の血を吸います。

11. 도대체 그 동안 무슨 일이 일어났을까? : 이호백 아저씨의 이야기 그림책

『うさぎのおるすばん』

家の人たちがお出かけしている間に、ベランダにいたうさぎが部屋の中に入ってきて、いつもやってみたかったことをやり始めました。冷蔵庫をあさって夜食を食べ、ビデオを見て、お化粧品をして、ダンスからチマチョゴリを出して着てみました。本はつまらないのか、すぐに子どものおもちゃで遊びはじめ、ローラーブレードを発見してあちこち走り回りました。そうして、子どものベッドに寝ていたうさぎは、朝になるとしらん顔して自分のうちに帰りました。だけど家のあちこちにうさぎがいた跡が残っていますね。

12. 반쪽이 『力持ちのパンチョギ』

むかし、子どものいない女の人が何度もお祈りをし、三人の子どもを生みました。一人目、二人目は普通の子なのに、三人目のパンチョギは目も耳も他のものもみんな半分ずつしか

ありませんでした。でも、兄たちにのけものにされてもへこたれません。倒したトラを持ち帰る途中、トラの皮を欲しがる長者に会いました。長者は将棋をして勝ったら娘と結婚させてやろうといいましたが、約束を守りません。しかしパンチョギは知恵を働かせ長者の家から娘を連れ出して、結婚して幸せに暮らしたんですって。パンチョギの心には知恵がいっぱいあったのです。

★パンチョギ：「半分しかない人」という意味ですが、ここではそれを名前にしています。

13. 밥 안 먹는 색시 (ごはんを食べない花嫁)

むかし口がとて大きいお嫁さんがいて、ご飯をたくさん食べました。だんなは、こんな嫁がいたのでは蔵に米がたまらなるとぶつぶつ文句を言ったあげく、嫁さんを死なせてしまいました。ふたり目の嫁さんは口がとて小さく、ご飯もすこしずつしか食べません。ところが蔵の米が少なくなっていくのをあやしく思っただんなさん、そと嫁さんの後をつけて行くと、頭に洞窟ほどの大きな口があつてご飯をほうりこんでいる嫁さんの姿がありました。だんなさんは嫁さんも蔵も捨てていちもくさんに逃げてしまいました。

14. 짝구 (犬のシロ)

友だちのように暮らして来た犬のシロが子どもを生んで、病気になってしまいました。だっこしてお医者さんに急いだけれど、注射がとて痛いと思つたのか、シロは逃げ出してしまいました。少女はシロをさがしまわりましたが、シロは車にひかれて死んでしまっていました。少女はシロを裏山に咲く赤いケイトウのそばにうめてあげました。その夜シロは少女の夢に出て来ていっしょに遊んでくれました。学校に行こうと家を出るとき、少女はふりかえります。シロがいつもいたその所は、ぼっかり穴のあいた少女の心のようなのです。

15. 빨간 끈으로 머리를 묶은 사자 (真っ赤なひもで頭をむすんだライオン)

森を歩いていたライオンが真っ赤なひもを見つけました。ひもは地面から生えていて、切ることができません。そのひもを頭に結びたいライオンはゾウ、シカ、ウサギ、キツツキにひもを切ってくれとたのみますが誰も切ることができません。そのときクモが現れて真っ赤なひもをライオンの頭にそと乗せてきれいに結んであげました。ひもを切つて持つていくことはできませんでしたが、真っ赤なひもを頭に結んだライオンは幸せそうでした。

16. 손 큰 할머니의 만두 만들기 (手が大きいおばあさんのギョウザ作り)

何でもものすごくたくさん、大きく作るおばあさん。今年も森の中の動物みんなと力を合わせて、一年分のギョウザを作ります。山ほど多くの具でギョウザをつくりませんが、三日が過ぎてもなかなか減らないので動物たちはぶつぶつ文句を言いました。そこでおばあさんは、残つた具をぜんぶ使つて世界でいちばん大きなギョウザをつくりました。ギョウザの皮は風呂敷ぐらゐの大きさなので、針でぬわなければなりません。そしてものすごく大

きいお釜でギョウザをゆでたあと、元旦の朝におなかをすかせた動物たちといっしょになかよく食べました。

17. 숨쉬는 항아리 (息をするつぼ)

素焼きのつぼは、息をすることができます。ある日、出来上がったばかりの小さなつぼは市場に行く車においていかれ、仕方ないのであたりを探検しました。おしゃれな陶磁器に出会い、不細工といわれて悲しくなりました。素焼きの仲間に出会った小さなつぼは、仲間たちから、自分たちは息ができるので、キムチなどをおいしくすることができますと聞きました。そうこうするうちに自分の中にも塩水と味噌玉や麴が入れられました。息ができたので上手にみそとしょう油ができました。

18. 심심해서 그랬어 『つまなくってさ』

留守番をしていたトルと子犬のポクシルは、たいくつで裏庭に行きました。一緒に遊ぼうと思って、やぎのたづなをほどき、うさぎ、にわとり、ぶた、牛小屋のとびらも開けてあげます。はしゃいだ動物たちは外に飛び出して畑をめちやくちゃにしまいました。トルはこわくなって泣いているうちに眠ってしまいました。草刈りから戻った母さんと父さんが動物たちを小屋に入れ、トルをしかります。この絵本は動植物が生き生きと描かれ、きゅうり畑を走る子牛は、ほんとうに飛びかかってきそうです。

19. 싸개싸개 오줌싸개 : 잃어버린 자투리 문화를 찾아서 (おねしょこぞう)

火遊びをしたらおねしょをする、と言われていました。ヨンソプは、火遊びをしておねしょをしてしまい、古い箕(み)をかぶって塩をもらいに行きました。ところが家を出たたん、みんなにからかわれます。ヒョンジのお母さんまで火かきぼうで箕をたたいて追い立てます。逃げ出したヨンソプと古い箕はおたがいをなぐさめました。ところで、なぜ箕をかぶったのでしょうか？ 人々は、おねしょをした子に箕をかぶらせて塩をまき、恥をかかせれば、二度とおねしょをしないと考えたのだそうです。

★箕：穀類をあおって殻・塵などを分け除く農具。竹・藤・桜などの皮を編んで作る。

20. 야광귀신 : 잃어버린 자투리 문화를 찾아서 (夜光おに)

お正月の夜にくつをなくしたことがありますか？ 犯人は、夜光おにです。夜光おにのつぼと大めだまは、人間が自分たちより幸せなのはくつをはいているからだと考え、くつを盗みにいきます。けれど毎年、門の前にかかったふるいの穴をむちゅうになって数えているうちに、夜が明けてしまいます。今年はカボチャに穴をあけて数える練習をしましたが、むだでした。ふるいの穴をうまく数えられず、にわとりの鳴き声を聞いて逃げてしまったからです。くつを守った人は悪い運をはねのけて福を得るそうです。

★ふるい(篩)：粉または粒状のものをその大きさによって選り分ける道具。

21. 엄마 마중 『かあさんまだかな』

寒さで鼻を真っ赤にした坊やが停車場までお母さんを迎えに行きました。電車がくるたび車しょうさんにたずねますが、だれもわかりません。坊やはお母さんが来ないのではないかと不安で落ちつきません。三台目の電車の車しょうさんが、あぶないから一か所で待つように言います。暗くなり、風が吹いても電車が来ても、坊やはじっとお母さんを待ちます。さて、坊やはお母さんに会えたのでしょうか？ 気になったら、雪の積もった坂道を注意ぶかく見てください。

22. 엄마가 사라졌어요 (お母さんが消えちゃった)

お母さんと弟といっしょに銀行に行きました。ちょっとよそ見をしていたらお母さんがいません。でも、おねえちゃんなので泣くのはがまんです。弟とさっき来た道をもどりましたが、家のドアにかぎがかかっています。おとなりのおばさんがお母さんに電話をしてくれました。お母さんは、私たちを見るなり怒りました。いなくなったのはお母さんなのに。でも、びっくりしてとても心配したからなんですって。お父さんが、今度そんなことがあったらその場で待っていなさいって。でも、考えるだけでもうこりごりです。

23. 엄마를 꺼내 주세요 (お母さんをたすけて)

家事にいそがしいお母さんは、お父さんが帰ってくる頃にあわててそうじをしました。でも、きちょう面なお父さんは、玄関からタンスのてっぺんまでそうじ機をかけなおしました。その時、あっという間にお母さんがそうじ機の中に吸い込まれてしまいました。びっくりした家族はそうじ機病院に行き、ほこりだらけになったお母さんを助け出しました。その後もおおらかなお母さんは散らかしながら家事をして、そうじはきれい好きなお父さんがやっています。

24. 여우누이 (キツネの妹)

息子3人をもつ金持ちは娘も欲しがり、村の神様に祈りました。お祈りを聞いたキツネは、自分が娘に生まれて、動物も人間も食べてしまおうと思いました。こうして念願の娘が生まれましたが、娘が7歳になったころから、夜ごとに牛や馬が死んでしまうので、父は息子たちに夜、牛馬の小屋の様子を見張らせました。長男と二男は失敗し、三男が、妹がキツネであることを両親に知らせましたが、妹を妬んだと追い出されてしまいました。道行く途中でカメを助けてあげて、妻を得た三男は、妻の不思議な力をかりてキツネの妹を追い払い幸せに暮らしたそうです。

25. 열두 띠 이야기 (十二支の話)

昔、神様が世界を造り、人々に幸せに生きていく術を教えるために、ねずみの神、牛の神、

虎の神、兎の神、龍の神、蛇の神、馬の神、羊の神、猿の神、酉の神、戌の神、猪の神を送りました。けれども、彼らは人々が幸せに過ごすようになると互いに自分のおかげだとして、大将になると言い争いました。すると、神様は世界に降りていった順番に年ごとに輪番で一年ずつ大将をするようにしました。そうして、十二支が生まれたそうです。

26. 오소리네 집 꽃밭 『あなぐまさんちのはなばたけ』

ある日、あなぐまお婆さんは集落の広場までつむじ風に飛ばされました。お婆さんは、広場で初めて見るものに心を奪われました。垣根の間に学校の花畑を見て、自分の家にもかわいい花畑を作りたくなりました。花畑を作ろうというお婆さんの言葉に、あなぐまおじさんは鍬で畑を掘り起こし始めました。ところが、鍬入れをしようとする、ナデシコ、ツリガネニンジン、リンドウ、キキョウがたくさん咲いていました。あちこち見回しても、一面あらゆる花々が咲いていました。あなぐまお婆さんは、ようやく自分が花畑の中に住んでいることを知ったのです。

27. 용돈 주세요 (お小遣いちょうだい)

土曜日の午後、ビョンガン君は家族で市場に行きました。おもちゃが欲しくなりお小遣いちょうだいと言いました。家に帰ったビョンガン君は、家のお手伝いをしますが、頭の中はお小遣いのことだけでいっぱいでした。お手伝いのご褒美にお小遣いをちょうだいとねだると、お母さんから反対に食費をちょうだいと言われました。ビョンガン君はふて寝して夢を見ました。夢の中ではお母さんが、ビョンガン君にお金を払えと迫ります。けれども、目が覚めたらお母さんはお小遣いをくれました。場面ごとに小さなペンギンが隠れています、それを探すのも楽しいです。

28. 우리 가족입니다 (うちの家族です)

おばあちゃんが一緒に暮らすことになったの。ところが、おばあちゃんは服にうんちをしたり、たんすからうじ虫をわかせたり、道に迷って家に帰る途中で寝たりするの。わたしはそんなおばあちゃんが恥ずかしいし、嫌い。だから、お父さんにおばあちゃんと一緒に住みたくないと言ったんだけど、おばあちゃんはお父さんのお母さんだから、一緒に住まなきゃならないって。お母さんとお父さんは、私と弟、そしておばあちゃんまでお風呂に入れます。今では、うちの家族はおばあちゃんもあわせて5人です。家族とは、恥ずかしいくても、しんどくても、がまんして、愛情いっぱい包まなければならないものなんですよ。

29. 우리 몸의 구멍 (私たちの体の穴)

黒い穴があるね。何だろう？水が流れる穴だ。では、真ん中の穴のまわりに、小さな穴があるのは？シャワーだ。2つの穴があるけれど、大きいのはトンネル、小さいのは鼻の穴

だ。この本は、まず穴があって、次にその名前とはたらきを教えてくれる。口、汗腺、耳、目もみんな穴だ。はたらきは違うけど、どれも必要なものだ。ほかに、おしっこ、おなら、うんち、そして汗、赤ちゃんが出てくる穴まであるよ。ところで、ふさがっている穴もあるんだけど、何かわかる？当ててみて。

30. 으악 도깨비다! (うわー、おばけだ)

村の入り口で昼間はじっと立っているチャンスンたちは、夜には自由に歩き回ります。けれど、夜が明けるまでには絶対戻らないといけません。7人のチャンスは、昼は口げんか、夜になると、つぼ運び大会をしたり、釣りや水泳もします。ある日、夜明けまでに戻れなかった「イケメン」が川にうまってしまい、その上どろぼうがトラックにのせて行ってしまいました。ほかのチャンスンたちが出て行くと、どろぼうは、おばけと勘違いして、驚いて逃げていきました。「イケメン」を助けた7人のチャンスは、今日も村を守るために立っています。

★チャンスン：村の守り神として村の入り口にたててある木像のこと。

31. 응가하자, 꾸꾸 (うんちしよう、うーんうーん)

全身を真っ赤にして力を入れて、赤ちゃんがうんちをします。けれども簡単には出ません。ヤギ、子犬、カバ、ヒヨコ、馬、ワニは、すっとうんちが出ますが、赤ちゃんだけができません。動物たちがみんなで「もう一回やってみよう、うーん、うーん」といって応援します。とうとう出ました。みんなで大喜びしました。赤ちゃんは子犬と手をとって踊りました。本を開いてすぐのトイレトペーパーは新しいものですが、動物たちがうんちをするたびにトイレトペーパーがちょっとずつ減っていき、最後には、芯だけがぽつんと転がっています。

32. 이모의 결혼식 (おばさんの結婚式)

ギリシャにあるクレタ島の小さな村、スピナリで開かれるおばさんの結婚式に、付き添いで出ることになりました。飛行機やバスに乗って、着いたところで会っただんなさんは、ことばも通じず、顔つきも違います。みんな涙を流して喜んでいますが、私はその人が気に入りません。ごちそうを食べながら打ち解けてはきましたが、キスはできませんでした。少しして、おばさん夫婦が韓国の私の家に来たとき、思わず涙が出てきました。私はそのだんなさんに抱きついてキスをしました。私たちは、ようやく本当の家族になったのです。

33. 줄줄이 쥔 호랑이 (串刺しになった虎たち)

むかしむかし、部屋のこっちでご飯を食べ、あっちでうんちをするぐらいものぐさな子がいました。お母さんが仕事しなさいと怒ると、くわで深い穴を掘って、村中のうんちを集めて入れ、ゴマをいっぱいふりまきました。ゴマの木がどんどん成長し、そこから油を搾

り、かめにいっぱいになりました。香ばしいゴマ油を、子犬に飲ませ、綱を足に結んで、山奥に残しておきました。すると、虎が子犬をがぶっとかみました。ところが、つるつるして、その犬がおしりから出てきて、次の虎も……。結局、山にいた虎すべてを捕まえたんですって!

34. 지하철을 타고서 (地下鉄に乗って)

チウオンちゃんは弟ピョングァン君を連れて、おばあさんの家に行くため、生まれて初めて子どもだけで地下鉄に乗りました。弟は動物病院の前で見物をしたり、切符を奪って逃げたりしました。地下鉄で弟は居眠りしますが、チウオンちゃんは眠れません。ついに降りる駅。弟をやつとのことで起こして降りましたが、また道で飛び回り、チウオンちゃんを怒らせます。おばあさんの家につくと、チウオンちゃんは、我慢していた涙をワッと爆發させました。そしていたずらっ子の弟のお尻をポンと蹴飛ばしました。

35. 토끼와 늑대와 호랑이와 담이와 (うさぎとオオカミとトラとタムくんと)

お母さんうさぎは、子うさぎに、狼がいるから外に出ないようにと言ってでかけました。子うさぎは狼が来たらどうしようと思いながら待っていました。でも、いつまで待っても来ないので狼の家に行ってみました。すると、子ども狼が、トラは怖いと思いながら留守番をしていました。二人は友だちになりトラを待ちましたがやって来ません。トラの家にいってみると子どものトラも、猟師が怖いので留守番をしていました。三人で仲良く遊びにいくと、銃を抱えたタムくんがやってきました。タムくんも森には怖い動物がいると言われていたのです。四人は仲良く、森で楽しく遊びました。

36. 팔죽 할멈과 호랑이 (あずきがゆばあさんとトラ)

ある深い山里に、あずきがゆをおいしく作るおばあさんが住んでいました。ある日、トラが現われて、おばあさんを食べようとしてきました。おばあさんは「冬になったら、あずきがゆを作っておあげるの、それまで待ってくれ」と言いました。ついに約束した日が来ました。おばあさんが泣いていると、クリ、スッポン、うんち、きり、うす、むしろ、しょいこが現われて、「あずきがゆを一杯ずつくれたら、助けてあげるよ」と言いました。おばあさんにあずきがゆをもらったクリたちは、力を合わせて、トラをたいじしました。

37. 하얀 눈썹 호랑이 『しろいまゆげのトラ』

山の奥に白いまゆげのトラが住んでいて、まゆげを使って人の本当の姿を見分けることができました。悪人を見つけては食べてしまったので、誰も山に入ってこなくなりました。トラはおじいさんに変身して町にでかけました。町では心の汚い人たちがトラの悪口を言っていました。すると、ひとりの女の子が近づいてきて自分をトラではないかと言いました。トラはあわてて山に帰りましたが、女の子が後についてきていました。女の子の心が

美しいことがわかったと、白いまゆげを一本女の子にあげました。女の子がそのまゆげを使ってトラを見ると、トラは山の神様に見えました。

38. 해님달님 (お日さまとお月さま)

兄と妹を家に残して、働きに出かけたお母さんの前に、大きなトラが現れました。トラは「もちを1つくれないと、食べちゃうぞ」と言い、もちをうばって食べましたが、お母さんも食べてしまいました。トラはお母さんの服を着て、兄と妹のいる家に向かいました。兄と妹は、トラをお母さんだと思い、門を開けてしまいました。ところがチマの下のしっぽを見て、トラであることに気づきました。木の上へ逃げて神さまに祈ると、天から太いつなが降りてきました。兄と妹はつなをたどって天に上り、お日さまとお月さまになりました。トラがつなにぶらさがると、つなは切れて、トラはトウモロコシ畑に落ちて死んでしまいました。

39. 흰 쥐 이야기 『ふしぎなしろねずみ』

おじいさんが昼寝をしていると、鼻の穴から小さなネズミが出てきました。おばあさんはネズミのあとをついていきましたが、ネズミは石垣の穴の中に入って、どこかへ消えてしまいました。おばあさんが家に帰ってみると、またネズミがやって来て、おじいさんの鼻の穴に入っていました。目を覚ましたおじいさんの夢の話は、ネズミがしたことと同じでした。おばあさんは、おじいさんが夢の中で見たという洞窟に行き、黄金のつぼを見つけました。おじいさんとおばあさんは、いつまでもいつまでも幸せに暮らしました。

40. (동물가족) 응가놀이 : 찰칵찰칵 사진찍기 (動物たちのうんちで遊ぼう)

ページの両側にある穴を手でつかんでみましょう。そして丸くやぶれたところに顔をつけてみましょう。動物たちのうんちについて、遊びながらべんきょうしましょう。うんちの形やにおい、色から、動物たちが何を食べたか、考えてみましょう。動物の大きさによって、うんちも大きさがぜんぶちがっていますね。ところで、人間のうんちと一番似ているうんちをする動物は何でしょう？